

〈解答〉

- 1 (1) ① 低気圧 ② イ
(2) イ
(3) ① 等圧線 ② イ
(4) イ
(5) (例) 周囲よりも中心の気圧が高くなっているから。

配点 各1点 7点満点

〈解説〉

- 1 (1) 台風とは、フィリピンの沖合など高温・多湿の低緯度帯（熱帯地方）の海上で発生した熱帯低気圧が、暖かい海面から蒸発した水蒸気が凝結（気体が液体へと状態変化）するときの熱をエネルギー源として発達し、その中心付近の最大風速が17.2m/s（風力8）以上になったものをいい、天気図上での台風は、せまい間隔の同心円状の等圧線でえがかれている。このように、台風は低気圧の一種であるが、日本付近を通過する温帯低気圧とは異なり、前線をとまなうことはない。また、台風の中心部の雲のない領域を、台風の目（眼）という。
- (2) (1)の解説より、台風は低気圧であるため、北半球では、風が反時計回りにうずを巻くように、その中心に向かってふき込んでいる。
- (3) 等圧線は、一般に1000hPaを基準として4hPaごとに引かれ、20hPaごとに太線で引かれる。ただし、台風の中心付近の気圧は非常に低いため、中心付近の等圧線を4hPa間隔で引くことは難しく、しばしば等圧線が省略される。
- (4) 高気圧の中心付近には下降気流が生じているので、中心付近では雲が消えて天気がよくなっていることが多い。上空から下降してきた空気は、中心付近の地表（海面）から周囲に向かって時計回りにふき出している。
- (5) 高気圧とは、周囲よりも気圧が高くなっているところのことである。1図では、Pの南西側に台風が、北側に温帯低気圧があり、これらの台風や温帯低気圧の中心からPに向かって気圧が高くなっていることがわかる。